

成資銀行の創始者

おだ にさく
小田仁作 (1851-1919)

守界隊を経て成資社を設立する

小田仁作は竹直村（現・吉川区竹直）で酒造業を営む百姓代・嘉七の息子として生まれました。少年時代、彼は松尾太仙の寺子屋に学び、謡曲を八木伊一郎に、画を飯田松坡に師事しました。

1868年（明治元）の戊辰戦争に際しては、上増田村（頸城区）の岡田保が高田藩の手薄な兵力を補うために組織した農兵隊・守界隊に参加しました。

1871年（明治4）彼は庄屋制度の廃止により竹直村総代となり、1874年（明治7）からは村の地券用掛補助、蚕種検査役などの役職を歴任しました。

1881年（明治14）仁作は成資社（吉川区竹直）を創設しました。その設立趣意書には「米穀の代金受け取りも春になって始めて満金となる。その間の金融は甚だ不便。資金を出し合って、融資し金融の便をはかり、併せて資金を増殖。さらに金融の円滑を図りたい、社名を成資社とする所以である」と記されています。

地元政財界で活躍する

1894年（明治27）成資社は成資銀行と改名し、浦川原村釜淵と瀧町村に支店を出しました。2年後、高田町に支店を出しますが、のちにこの高田支店が本店となりました。高田での仁作は、1899年（明治32）高田貯蓄銀行取締役、1902年（明治35）中頸城郡会議員、1907年（明治40）第十三師団の高田誘致運動委員をつとめました。

一方、地元の吉川では、1893年（明治29）から高等小学校組合会議員、1900年（明治33）中吉川村学務委員、1902年（明治35）吉川村村会議員・中頸城郡会議員などの要職を歴任しました。その後、仁作は1908年（明治41）成資銀行の頭取を辞任するまで地元政財界の第一線で活躍し、1919年（大正8）1月18日、自宅で亡くなりました。

なお、成資銀行は六十三銀行を経て、1931年（昭和6）八十二銀行に吸収合併されました。